

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨシケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には病院、店、駅、図書館などもあり、また四季の移り変わりが感じ取れる自然にもめぐまれた環境の中に立地している事業所です。『「自立・笑顔・夢・希望」自立への喜びは明日への夢と希望、一人一人に寄り添う笑顔の介護』を理念とし、10代から60代までの幅広い年齢層の職員が、チームワーク良く笑顔のあふれるホームであるよう頑張っている。馴染みの職員(長年勤務している職員が多い)が寄り添うことで、利用者様も安心して生活できる居場所となっている。利用者様、ご家族とのコミュニケーションを大切に、共に支えあう関係作りを築くよう努めている。利用者様お一人お一人の心に寄り添い、一日一日を大切に支援するように心がけている。また、重度化した利用者様も、今持っている力を考慮し、きめ細やかなケアに努めることで進行を遅らすことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や水田など緑豊かな自然に囲まれ、駅・バス停・店舗・飲食店・各種施設が近く、友人・知人の訪問が多く、買物・ドライブなどもよく支援しています。不動産業の福祉事業部として当該事業所・シルバーマンション・有料老人ホームを営む代表者は、幼稚園・保育園・支援学級と関わり、高齢者のゲートボール大会を主催するなど、ボランティア活動に長年取り組んでおり、地域の中に溶け込んでいます。長期就業者が多く、幅広い年齢層の職員はチームワークも良く、丁寧なあたたかい対応は家族アンケートにも表れています。スタッフ全員で話し合いを重ね、より良いケアを目指して、向上心を持って前向きに取り組んでいる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年職員全員で施設理念を決め、意識統一を図りました。運営理念と共に目の届くところに掲示し、折にふれ話し合い、理念の共有実践につなぐ努力をしている。	昨年、職員一人ひとりが考えたものをユニット毎にまとめ、さらに事業所全体で話し合いを重ねて事業所独自の理念をつくっています。朝礼で復唱し、折に触れて確認し、共有と実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体の代表者は、長年に亘り福祉の充実を願い、ボランティア活動を通じて地域社会に貢献してきた。同地域に3ヶ所グループ施設があり、地域に根付いた施設となっている。	小学生・地域のボランティアの訪問や中学校の体験学習などを受け入れています。代表者はパン作り教室・果樹園での収穫祭・ゲートボール大会などを開催し、地域との交流に長年取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で使用した資料が、町内民生委員会の勉強会で活用していただいたり、また、地域にお住まいの高齢者のことで困られていることなどの相談などにも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、長寿会、地域包括支援センター、介護保険課、他施設長、ご家族、ボランティア等の方々に参加いただき2ヶ月に1回開催している。GH職員は交代で参加し、皆さんからの意見をサービス向上に活かしている。	家族・民生委員・地域包括支援センター・行政・地域の方などの参加を得て定期的に開催しています。状況報告や認知症・薬についてなどテーマを選んで話し合い、民生委員の勉強会でもその資料が活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず、介護保険課、地域包括支援センターの方に出席していただき、事業所の取り組みなどを報告し、職員やご家族の相談に乗っていただいたり、アドバイスを受けている。	運営推進会議に必ず参加してもらい、実情を伝えたり、日頃から疑問や質問など電話や直接出向いて相談するなど、良好な関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、正しい内容の把握に努めている。身体拘束を行わない為に、そのような支援が必要かという事を話し合い、見守りの強化に取り組んでいる。	勉強会で具体的な行為を正しく理解するよう努め、会議や職員アンケートでスタッフ同士がお互いに注意し合い、特に言葉遣いなどには気を配って、身体拘束をしないケアに心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんだが、言葉の虐待には特に力を入れ、アンケートをとったり、話し合いを行ったりしている。職員個人で言葉の使い方の認識が違う為、統一は出来ていないが、お互いに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用しておられる方がおられます。施設内の勉強会に取り入れ、知識の習得ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に時間をかけて説明を行い、不明な点、疑問点には丁寧に答え、理解、納得していただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、日頃から利用者、ご家族とのコミュニケーションを大切に、日常会話の中から意見や要望をお聞きし、運営に反映させるよう取り組んでいる。	毎月の便りや電話でのやり取り、面会時の会話の中で、コミュニケーションをとりながら家族から意見や要望を聞くとともに、利用者の意向を汲み取り、反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議などを通じ、意見や提案などを聞く機会を設けている。また、職員との直接対話から意向を汲み取り、運営に反映するように配慮している。	気持ちよく働くために気を配っており、日頃から意見や提案など気軽に話す機会が確保され、代表者に伝え、手摺やスロープの設置などできることはすぐ対応し、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休み希望などをできるだけ聞き入れ、無理なく働くことができるように努めている。定期的にグループ内3施設で福祉会議を行い、職員の処遇改善にむけて努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内研修を行い、施設外研修も全員受講する機会を設けている。資格取得希望者には、取得費の立替をしたり、勤務時間への配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は不定期ではあるが、近隣同業者が集まり、ネットワーク作りや情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話をしながら、家族や関係機関の方との話を照らし合わせ、思いを聞くようにしている。本人の訴えに対し、まずはどのような対応が可能かという事も話をしながら、不安を解決していく報告での話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がここで生活をしていくうえで、何を希望されているかを聞き、まずは可能と思われる解決方法を提案しながら、一緒に方向性を決定していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要なサービスを提供した上で、本人と生活を共にしていきながら、発生する問題に対し、その都度相談をしながら、必要であるサービスと、ここで可能なサービスを調整するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物に出かけたり、暮らしの知恵を頂いたり、できることを一緒にしている。気兼ねなく話ができる関係作りに努めている。しかし、暮らしを共にする者同士とはいえ、言葉使いなどの必要な線を引き気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙などで、本人の状態をお伝えしたり、様々な面で相談をしながら、本人とのつながりをしっかりと保つようにしている。家族とのコミュニケーションが苦手な職員もいる為、今後力を入れて取り組んでいきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出時になじみの場所や懐かしい場所にお連れした時には、思い出話を聞きながら、次の予定を決めたりしている。また、友達やご近所の方が面会に来られた時には、関係の継続ができるように、家族にも一報伝えている。	入居者のほとんどが町内の出身者で、家族をはじめ友人・知人・近所の方など面会も多いようです。ドライブや外食・買物など、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事以外でも皆さんで何かをしようとする時には、声をかけている。またきっかけ作りにも努めている。本人が参加してみようかという内容のレクにも取り組んでいる。実際にレクの内容によって参加の回数が増えた利用者の方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行ったり、ご家族に連絡を取り様子をお聞きしたりしている。退院後の居場所についての相談を受けたり、可能な限りの支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は日々話をする中で、出来る限り取り入れられるようにしている。困難な場合でも、職員と家族がどこまでできるかを話し合い、解決に努めている。	家族からの聞き取りや、本人の日頃の会話・態度などから推察し、申し送りや会議などスタッフ間で話し合い、思いや意向を把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関より話を聞き情報の収集をしている。また何気ない会話の中で出た話も、職員同士の情報交換を行って把握をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かい状態変化に対し気配り、観察を行い、スタッフ全員が現状の把握ができるように申し送りにて情報の収集を行っている。また些細な変化に気付けるように職員個人が本人について理解するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファと週に1度のミニカンファにて、その時その時の本人の対応について話している。また、計画書の変更が必要な時には、観察や対応方法の検討を行いながら、本人や家族に話をして意向を聞いている。	毎日の状態をチェックし、定期的にあるいは変化に応じてモニタリングを行い、毎週・毎月の会議で話し合い、家族とは電話や直接対話し、了解を取りながら現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやノートへの伝言にて情報交換をしている。本人の状態の向上や低下に合わせた対応を統一した状態で行いながら、利用者個人の対応を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつもと違う、その時の本人の状態により今何が必要か？どうすべきか？という事を、出勤スタッフと話し合いながら、実行する。方法や結果を申し送り、一時的なものか、継続的なものかを検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の数多くのボランティアの方々に訪問していただき、一緒に楽しい時間を過ごされている。近隣の店や図書館なども利用し、地域の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が選択している。診察時には前回の受診より本人に変化が見られる時には、電話や口頭、文書にて、報告を行い適切な医療を受けられるように努めている。	月2回の訪問診療、従来のかかりつけ医への受診、専門医への受診など家族の協力を得ながら、緊急時の対応も含め、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診、受診時には、必要な事について報告を行っている。またそれ以外の時でも何か問題がある時には早急に連絡し、対応方法についての指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と密に情報交換を行うようにしている。普段から協力医療機関を中心に、コミュニケーション作りを心がけ、何でも相談できる関係を構築できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の要望を聞き、GHでは医療行為が出来ないことなどの説明を行っている。また、状態が変わった時には、ご家族、主治医、GHの三者で、良く話し合い方針を決めている。	過去に看取りを経験したこともあるようですが、契約時や状態変化による医療行為の必要性も含め、医師・家族を交えて、事業所に対応できる範囲を話し合っています。	設備や医療行為の問題、医師・家族との連携など多くの課題がありますが、これからも本人・家族の望む方向で支援できるよう、話し合いを進め、実践に繋げていかれることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、救急法の講習を受けている。事故対応マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。事故、急変時の初期対応の仕方、応急手当の実践は、施設内研修などで回数を重ね確実に身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災報知機を実際に作動させ、日中、夜間を想定しての避難訓練を行っている。毎月、訓練担当者による小さな訓練(布団を使用しての非難、担架の組み立て他)も行っている。地域の方々にもお願いしている。	火災・防災・防犯などの訓練を毎月交互に実施しています。消防署や地域の協力を得ながらさまざまな方法を試し、確認しながら進めています。	非常食又必需品等を話し合っ、まさかのときに対応できるよう備えていられることを提案したいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や、お互いに注意をしながら、言葉使いには気をつけている。また、申し送り等では本人や他利用者の方にプライバシーに関する情報が耳に入らないように配慮している。	勉強会や職員アンケートで、言葉掛けなどお互いに注意しながら気を配っています。スタッフ同士の会話も丁寧で、一人ひとりを尊重し思いやる様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決められた事に対する相談を行う事もあるが、出来るだけ自己決定ができるような質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人より訴えがある時にはどのようにしていくかを話し、決めている。また、様々な所でのその方その方のペースは大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服のコーディネートや小物の使い方など、お互いに楽しみながら、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意や、片付けなど、本人の意欲を大切にするとともにやっている。また、バイキングやリクエストメニューの日を作り、食事を楽しみにしていただけるように配慮している。	グループ内で共通のメニューがあり食材を共同で購入していますが、バイキングの日・誕生日又、菜園で収穫した野菜を取り入れるなどの工夫もされています。できる人には準備や片付けなどを一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の形状に配慮し、摂取量の記録をしている。また、食事制限がある方には他の利用者の方との差が目立たないような配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け、誘導を行っている。就寝前は義歯を預かり、洗浄している。毎食後の口腔ケアは全員が確実に出来てはいない為、習慣となれるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すぐにオシメだけの生活になってしまわないように、排泄介助には力を入れている。排泄の自立支援が困難な方の場合はトイレでの排泄を気持ちよくして頂けるように誘導を継続している。	排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄できるよう誘導し、自立に向けて支援しています。101歳の方には清潔が保たれるよう特に注意を払っているとのことです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動のほかに排便を促す食材の摂取などで、自然排便を促している。それでもダメなときには薬の使用も行い、便秘状態の改善を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は決まっている。しかしその時の本人の状態や希望にて、臨機応変に対応できるようにしている。	入浴日は決まっていますが、一人ひとりの体調や希望を考慮し柔軟に対応しています。最高齢の方には負担にならないようシャワーを使用したり、拒否者には声掛けを工夫しているそうです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などで臥床が必要な方は、定期的に臥床して安静を保っている。また自立している方も、自由に自室でくつろいだり、横になっている。夜間はエアコンの調整や、1時間おきの巡視にて、不安なく良眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬や、副作用がすぐ分かるようにファイルに綴じていつでも見られるようにしている。新しく服用する薬についてはどのような副作用があるか確認し、観察を行うようにしている。薬は飲み込むまで、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事や日々のちょっとしたレクなどで、「楽しかった」と言ってもらえる事が少しでも多くなるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした買い物程度はその日又は近い日に一緒に出かけられるように実施している。個人の外出希望に関しては、家族と相談をしながら、予定を立てている。また、外食の行事を行ったり、戸外に出て、季節を感じて頂けるように支援している。	芝生のある広い庭への出入りは自由で、草花を摘んだり、菜園で野菜を育てて収穫しています。お花見・紅葉狩り・初詣・外食・ドライブ・買物・図書館など希望にそって計画を立て、2・3人単位でよく外出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金の所持は出来ないことになっている。が希望されるものがある場合は、その都度職員と一緒に買い物にでかけ、GHの立替で購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には、電話をしたり代筆にて手紙を書いたりしている。定期的に家族から連絡がある利用者もあり、ゆっくりと話をする機会をもうけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔の保持には努めている。また季節感のある壁面で、今の時期を楽しんで頂いている。また、室内の温度調節も行いながら、季節の風や日差しなども不快感のない程度感じていただくようにしている。	建物は自然素材の木がふんだんに使われており、落ち着きがあります。キッチンから居室が見渡せ、リビングは明るく季節の飾り付けがなされ、畳のコーナーがありソファ・テーブル・椅子などが置かれ、思い思いに居心地よく過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所にはソファや畳があり、自由に過ごしていただくようになっている。ソファで読書をしたり、新聞を広げたり。玄関に出てベンチで過ごしたりされている。他の利用者を自室に呼んで、一緒に過ごす方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れている家具や、馴染みのある小物などを持参してもらい、本人独自の自室を作ってもらっているようにしている。	使い慣れたものや好みのものを持ち込み(床に布団を敷いたり、仏壇を置いたり)それぞれに工夫し、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりはもちろんだが、居室内では本人が過ごしやすいようにベッド、家具を配置し、共用の空間では、障害になるものを置かないようにしている。いつも同じものが同じところにあるように配慮している。		